

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第12回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成28年2月25日（木）13：30～16：00に、埼玉県久喜市の久喜総合文化会館において「第12回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

湿地保全再生検討委員会委員を含め、計14名にご出席いただきました。

【委員参加者名簿】 ○印がモニタリング委員会委員

（学識者・NPOなど）（五十音順・敬称略）

- 青木 章彦 作新学院大学女子短期大学部 教授
- 一色 安義 渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
- 大和田 真澄 栃木県植物研究会 会員
- 岡島 秀治 東京農業大学 農学部 教授
- 高松 健比古 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
- 福濱 万哉 国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官
- 古澤 満明 渡良瀬遊水地友の会 副会長

（行政）

- 大久保 寿夫 栃木県 小山市長
- 菅谷 憲一郎 茨城県 古河市長（代理 市長公室企画課係長 粕田毅）
- 鈴木 俊美 栃木県 栃木市長（代理 遊水地課長 荒川明）
- 真瀬 宏子 栃木県 野木町長（代理 政策課主任 鈴木康弘）
- 栗原 実 群馬県 板倉町長（代理 企画財政課主任 桜井洋介）
- 大橋 良一 埼玉県 加須市長（代理 環境政策課長 大和田一善）
- 横森 源治 国土交通省 利根川上流河川事務所長

はじめに、第11回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員に確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリング結果について報告するとともに、今後の掘削候補地と造成の考え方を説明しました。委員からはモニタリング結果への評価や今後の掘削手法についてご意見やご助言を頂きました。

【委員会の様子】



○報告内容と主なご意見

＜モニタリング結果について＞

個々の実験地における植生や水位のモニタリング調査結果について報告しました。概要は以下の通りです。

- ・ 9月の出水により渡良瀬遊水地全体が冠水したが、年間を通した各実験地の冠水頻度としては例年と大きな違いはなかった。
- ・ 湿地再生地区では、セイタカアワダチソウやヤナギ類の侵入が顕著であった。
- ・ 緩衝帯地区の掘削地（水路から独立した池）では、残存根茎からのヨシ原の再生が見られた。また、冠水期間の長期化によりセイタカアワダチソウが減少した。
- ・ 春には環境学習フィールド（3）の一部でこれまで見られなかった浮葉植物が見られたが、秋には消えていた。今後、底泥の撒き出しによる沈水植物の再生実験を計画する。
- ・ 表土撒き出し実験地では、スゲ類を伴う植物群落が見られた。

◎主なご意見

- ・ 市民によるセイタカアワダチソウ駆除作業から、セイタカアワダチソウは年数回の抜き取りにより、生育を抑制できることが分かってきている。
- ・ 再生したヨシがヨシズとして利用できるようなものであるのか、ヨシの質に関する調査も今後必要ではないか。
- ・ 実験地の水の中の生物多様性を高めるためには水生植物が重要であることから、事務局が提案するように底泥の撒き出しを行って頂きたい。

＜次期掘削候補地と掘削手法について＞

緩衝帯地区における、次期掘削候補地（2）、（3）について掘削計画の概要について説明を行いました。概要は以下の通りです。

- ・ 次期掘削候補地（2）は、地下水に沿った緩やかな階段形状とし、残存根茎からのヨシ原再生、表土撒き出しによる湿地再生（スゲ原の再生）などの実験を進める。
- ・ 次期掘削候補地（3）は、隣接する掘削回避エリアと同程度の標高まで掘削し、表土撒き出しによる湿地再生（スゲ原の再生）などの実験を進める。

◎主なご意見

- ・ 表土撒き出しによるスゲ原再生の実験は是非行っていただき、今後広げて行っていただきたい。
- ・ 渡良瀬遊水地周辺の水田では、シギ・チドリやサギ類といった大型鳥類の利用が確認されている。大型鳥類を主眼に置く実験地として、水田のような水深が浅く、定期的に人為的な攪乱を行うような実験地も検討してはどうか。